

# 大雄山最乗寺・二十八宿石灯の保全状況推移

作成:2020.02.15

	二十八宿			元治系石灯(1864)		明治系石灯(1907)		平成の石灯	備考
	表記	読み	丁目	1982年調査	2011年図録	1982年調査	2011年図録	2011年図録	
1	角	かく	一	×		△	◎		
2	亢	こう	二	×	△	○	○		
3	氐	てい	三	△	△	◎	◎		
4	房	ぼう	四	×		◎	◎		
5	心	しん	五	○	◎	○	◎		
6	尾	び	六	×		○	○		
7	箕	き	七	×		×	△		
8	斗	と	八	×		×	◎		
9	牛	ぎゅう	九	×	◎	◎	◎		
10	女	じょ	十	×		×	○		
11	虚	きょ	十一	△	△	○	◎		
12	危	き	十二	△	△	○	◎		
13	室	しつ	十三	×		○	◎		
14	壁	へき	十四	×		△	◎		
15	奎	けい	十五	△	△	○	◎		
16	婁	ろう	十六	×		△	○		
17	胃	い	十七	×		×		◎	平成2年再建
18	昴	ぼう	十八	×		◎	◎		
19	畢	ひつ	十九	○	◎	◎	◎		
20	觜	し	廿	×		×		◎	平成2年再建
21	参	しん	廿一	×		◎	◎		
22	井	せい	廿二	×		◎	◎		
23	鬼	き	廿三	×		×	◎		
24	柳	りゅう	廿四	○	○	◎	◎		
25	星	せい	廿五	◎	◎	◎	◎		
26	張	ちょう	廿六	◎	◎	◎	◎		
27	翼	よく	廿七	×		◎	◎		
28	軫	しん	廿八	◎	◎	◎	◎		元治系は石灯笼
確認基数計				10	12	22	26	2	

注1) 各記号は、◎:ほぼ良好な状態 / ○:一部埋没など / △:一部欠損、倒伏など / ×:未確認 を示す。

2) 2011年図録の各項は、『星々のみちびき』[文0316]の記録より作表。

3) 和名は広辞苑の解説による。

4) 距星は『中国の星座の歴史』[文0129]による。

方位	和名	距星
東方(蒼龍)	すぼし	$\alpha$ Vir
	あみぼし	$\kappa$ Vir
	ともぼし	$\alpha$ Lib
	そいぼし	$\pi$ Sco
	なかごぼし	$\sigma$ Sco
	あしたれぼし	$\mu$ Sco
	みぼし	$\gamma$ Sgr
北方(玄武)	ひきつぼし	$\phi$ Sgr
	いなみぼし	$\beta$ Cap
	うるきぼし	$\varepsilon$ Aqr
	とみてぼし	$\beta$ Aqr
	うみやめぼし	$\alpha$ Aqr
	はついぼし	$\alpha$ Peg
	なまめぼし	$\gamma$ Peg
西方(白虎)	とかきぼし	$\zeta$ And
	たたらぼし	$\beta$ Ari
	えきえぼし	35 Ari
	すばるぼし	17 Tau
	あめふりぼし	$\varepsilon$ Tau
	とろきぼし	$\lambda$ Ori
	からすきぼし	$\delta$ Ori
南方(朱雀)	ちちりぼし	$\mu$ Gem
	たまほめぼし	$\theta$ Cnc
	ぬりこぼし	$\delta$ Hya
	ほとほりぼし	$\alpha$ Hya
	ちりこぼし	$\upsilon$ Hya
	たすきぼし	$\alpha$ Crt
	みつかげぼし	$\gamma$ Crv